

社会連携報告書

2025（令和7）年度

鈴鹿大学・鈴鹿大学短期大学部
COC（地域連携）センター

目 次

はじめに	1
1. 高大連携	2
1-1 鈴鹿大学と鈴鹿高等学校との連携事業	
2. 学生による地域活動	3
2-1 三重県内小中学校での学習支援等ボランティア	
2-2 こどもボランティア部	
2-3 グローバルスタディ	
2-4 鈴鹿大学 ICC (International Communication Club)	
3. 地域連携	8
3-1 公開講座・授業公開	
3-2 高等教育コンソーシアムみえ	
3-3 鈴鹿市社会福祉協議会との防災関連事業	
3-4 あそび広場「すずちゃん」	
3-5 すずか市民アカデミー「まなベル」	
3-6 みえアカデミックセミナー	
3-7 四日市市ステップアップ講座「イスラームと女性の人権のお話 - マレーシアの女性たち」	
3-8 鳥羽市市民図書館における多文化共生ポスターの作成	
4. 国際交流	17
4-1 海外留学支援プログラム	
4-2 国際交流	
●巻末資料	19
・公開講座一覧	
・学外委員会での活動一覧	
・協定先一覧	

はじめに

本学では創立者堀榮二がかかげた校訓「誠実で信頼される人に」を建学の精神としています。その願いは、“誠実さを基にして学生は教職員を信頼し、教職員もまた学生を信頼することのできる教育の場にして、ここで培った信頼感を社会に広げたい”というものです。こうした精神のもと、鈴鹿大学は、“培った信頼感を社会に広げる”に因り地域社会との連携に積極的に取り組んできています。

大学が地域社会と連携することは、大学のみならず地域社会との持続可能な発展・成長に資する重要な役割を果たすと考えます。地域社会のニーズを把握し、知識や技術を共有することで、地域経済の活性化や地域社会の課題解決に貢献することも可能です。また、学生にとっては実践的な経験や社会貢献の機会を得ることができ、地域とのつながりを深めるとともに社会の中で生きることの有用性を体感することができます。

こうした中、令和7年度は、様々な態様による社会との連携活動を行ってきました。

1つ目は、大学と高等学校との連携による知の共有です。大学の研究成果や専門的知識を活用した高等学校との連携です

2つ目は、学生による地域活動です。学生が主体となり地域の団体や住民に対して活動を提供してきました。

3つ目は、教員による地域連携です。地域住民を対象としたセミナーやワークショップ講座の開講、また大学の研究成果を活用した産学官交流等です。

4つ目は、国際交流です。本学の開学以来の強みである海外大学との交流や留学生を中心とした活動を積極的に行ってきました。

当報告書では、令和7年度に本学が行った地域社会との連携活動をまとめました。

今後ますますの発展ができますよう、皆様のご指導・ご鞭撻をよろしくお願いいたします。

COC（地域連携）センター長 伊東 直人

1. 高大連携

1-1 鈴鹿大学と鈴鹿高等学校との連携事業

■活動の目的と経緯

鈴鹿大学こども教育学部には、幼稚園教諭免許状と保育士証、また養護教諭免許状を取得できるコースがあり、専門の教員や施設が整っています。鈴鹿高等学校の幼児教育クラスや看護医療クラスに通う人達が、「総合的な探究の時間」の一環として、本学での専門的な学びを体験し、希望する進路への興味関心を高めることを目的として、この連携事業を実施しています。

■活動内容と実績

前年度から鈴鹿大学と鈴鹿高等学校の担当教員が打ち合わせを行い、授業内容を丁寧に確認します。教員が鈴鹿高等学校を訪問して授業を行う他、高校生が実際に本学に来校して受講する回も設け、講義や演習を交えて行っています。2025年度は、幼児教育クラスは、2年生は「制作活動」、「音楽活動」など4回（うち1回が大学生と合同授業）、3年生は「保育者の資質とマナー」、「乳児保育」など3回（うち2回が大学生と合同授業）の講義を実施しました。看護医療クラスは、2年生は「バイタルサインと妊婦体験」を1回、3年生は「バイタルサインを測ろう。こんな時、どうする？」を1回といった講義を実施しました。

幼児教育クラスでは「なんの絵をどのように描くか難しかったけど、大学生の方が優しく教えてくれたり、友達と意見交流できる時間がたくさんあったので作りやすかった。」、看護医療クラスでは「シミュレーター人形の腸の動く音や呼吸音を聞いたり、妊婦体験や新生児人形を抱いたりして命の大切さについて考えた。」などの感想があり、好評でした。高校生との合同授業は、大学生にとっても大学での学びを振り返る貴重な機会となっています。



幼児教育クラス2年生の授業風景



看護医療クラス2年生の授業風景

■今後の計画

2026年度以降も鈴鹿高等学校と協力しながら、高校生の皆さんの学びを深めるこの取り組みを継続していく予定です。

■担当

こども教育学部 上田ゆかり y-ueda@suzuka.ac.jp

こども教育学部 みやざき美栄 m-miyazaki@suzuka.ac.jp

2. 学生による地域活動

2-1 三重県内小中学校での学習支援等ボランティア

■活動の目的と経緯

当活動の目的は2つあります。一つは、学生の学びです。将来教員を目指すこども教育学部の学生にとっては、教育現場において児童生徒の支援や教職員のサポートを体験することで教育現場の課題を体感したり、児童生徒と接することの喜びを体感できたりし、自らの可能性を広げることができます。

もう一つは、教育現場への支援です。様々な子どもたち一人ひとりへの支援の一端を学生自身が担ったり、教員の事務的な仕事の補助についたりすることで、教員の負担軽減につながります。働き方改革が進められている教育現場において学生が活躍することができます。

■活動内容と実績

1 三重県教育委員会「大学生等教育アシスタント」及び「自主ボランティア」

「大学生等教育アシスタント」については、前期10名、後期6名が登録して活動を行いました。

また、「自主ボランティア」として、4名が活動を行いました。

活動内容は、実施校によって内容は様々ですが、主に授業時の児童生徒の学習支援を行っています。通常の学級だけでなく、特別支援学級における支援も行うなど、学生にとっては貴重な経験となっています。

2 有償ボランティア（学習指導員・スクールサポートスタッフ・保育士補助等）

有償ボランティアである学習指導員やスクールサポートスタッフ、保育士補助として活動する学生もいます。

学生は、こどもたちから「先生」と呼ばれ、授業や保育の補助をすることはもちろんですが、休み時間に一緒に遊んだり、行事を手伝ったりと、様々な場面で活躍していきました。中には、時間さえあれば小学校や保育所に出向き、積極的に子どもたちとかわる学生もいます。

小学校の校長からは、「学生がこどもたちに寄り添ってくれ、安心して学校生活が送れるようになっており、ボランティアに来て頂けることは、大変助かっています。鈴鹿大学の学生は、こどもたちに寄り添って面倒をみってくれるため、全体的に意識の高い方が多い印象です。学生のみなさんには、本校で過ごす時間を、多くの学びを得る機会のある場としてほしいです」という感想を頂いており、小中学校と大学双方にとって有意義な取り組みであると考えています。

■今後の計画

2026年度以降も三重県教育委員会の教育アシスタント制度や学習指導員等の制度を活用しながら、さらに多くの学生が参加できるよう呼びかけ、取り組みを継続していく予定です。

■担当

こども教育学部 伊東直人 n-ito@suzuka.ac.jp

2-2 こどもボランティア部

■活動の目的と経緯

こどもボランティア部は、様々な社会問題を常に洞察していく心を大切にし、教育・保育活動と密接に繋がっている「こども・保護者・地域」と積極的に関わりを深めていける自律的な活動体を目指し、こども教育学部一期生を主体に平成29年度に歩みを始めました。

■活動内容と実績

こどもボランティア部は、コロナ禍前には、主に「NPO 法人 いのちの言葉プロジェクト」とタイアップし、丁寧なご指導を頂きつつ、交通事故被害者、犯罪事件被害者など、残された遺族に寄り添う活動のお手伝いをさせて頂いてきました。しかし、令和2年度からのコロナ禍により様々な活動が中断され、主力だった学生の卒業・就職に伴い、後輩への活動の継承も危ぶまれましたが、令和4年度には、新しい学生メンバーにより地域に根差した活動の模索が再スタートしました。

令和7年度の取り組みは、各部員が社会との個人的なつながりの中から小規模なボランティア活動に参加するケースが定着してきており、部全体で取り組む活動とともに、活動の参加方法についての多様化が進みました。主な活動を以下にまとめました。

- こども服・おもちゃ・ぬいぐるみの寄付募集&回収ボックスの設置
 - キッズ☆おしごと広場（準備・開催スタッフのボランティア）
 - ブルーサンタ ビーチクリーン活動（ゴミ拾い）
 - 鈴鹿けやきホール（こども服の無償提供）
 - 郡山公民館（夏祭りの準備・開催・片づけ）
 - プロギングみえ（お城公園ゴミ拾い）
 - ワールドクリーンアップデー活動（鈴鹿大学と周辺の住宅地のゴミ拾い）
 - こども服・おもちゃ・ぬいぐるみの寄付募集の準備
 - 大学祭（こども服・おもちゃ・ぬいぐるみの無償提供）
 - 認定こども園みらいの森秋フェスタ（絵本の読み聞かせ）
 - こども食堂（楽器演奏・絵本の読み聞かせ）
 - みえまちキャンパス（県内の各高等教育機関による活動報告プレゼンテーション）
- 他、小規模、単発のボランティア活動多数



「プロギングみえ」での清掃活動



「国連ワールドクリーンアップデー」での清掃活動

■今後の計画

継続中の活動は、さらにより良いものに改善していけるように知恵を出し合っていくことも今以上に期待されます。あわせて、外部からのボランティア活動のお誘いを受け取る窓口（大学の総務課、学生支援課、部へ直接、など）の一本化・円滑化も課題として残っています。

■担当

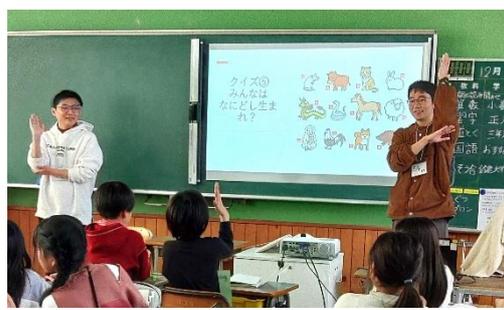
こども教育学部 真下賢一 k-mashita@suzuka.ac.jp

2-3 グローバルスタディ

■活動の目的と経緯

地域社会における多文化共生社会の実現に向けた取り組みとして、国際経験豊かな留学生や日本人学生を、地域の教育機関や行政、国際交流団体等に派遣しています。

本事業は、地域の皆様に異文化への知識と理解を深めていただくだけでなく、参加する学生の自己啓発を促す「教育の場」としても位置づけています。学生が本学で学ぶ専門性と国際経験を活かしながら、地域との交流・協働の中で、責任感、自律心、創造力、コミュニケーション能力等を高めることを目的としています。



【2025年度 派遣実績一覧】

- 2025年6月28日：SIFA 日本語ボランティア養成講座交流会
参加学生：4名（中国、韓国、ネパール、ベトナム） / 参加人数：12名
- 2025年7月9日：三重高等学校 韓国語研修事前交流会
参加学生：4名（韓国3名、日本1名） / 参加人数：24名
- 2025年12月5日：郡山小学校 多文化共生学習会
参加学生：2名（中国2名） / 参加人数：33名

■活動の概要

本年度のグローバルスタディでは、鈴鹿大学 ICC（International Communication Club）のメンバーが各訪問先のニーズに合わせた独自のプログラムを企画・実施しました。小学校では児童の好奇心に応える「体験型学習」を、高校では研修に向けた「実践的な語学支援」を行い、双方向のコミュニケーションを重視した柔軟な交流を展開しました。学生たちは、自らのバックグラウンドが地域社会の学びに貢献できることを実感し、発信力や柔軟な対応力を養うことができました。また、地域の方々にとっても、主体的に活動する留学生と直接触れ合うことで、異文化を身近に感じる有意義な機会となりました。

■今後の計画

引き続き、ICC をはじめとする学生組織と連携し、県内教育機関や行政からの学びのニーズに応えつつ、地域社会と本学学生の双方にとってより充実した学びとなる活動を目指し、事業展開を進めていきます。

■担当

学生・キャリア支援課および国際交流センター gakusei@suzuka.ac.jp

2-4 鈴鹿大学 ICC (International Communication Club)

■活動の目的と経緯

留学生が地域貢献活動をするにより、多文化共生社会実現の第一歩となる活動をしています。

当初は、学生間の交流をはかるために結成され、毎週木曜日の昼休みに食堂などに集まることから始まりました。その後、留学生の学生時代にしかできない意義ある活動、かつ卒業後も効果を発揮する活動として、留学生による地域貢献活動を始めました。メンバーは、50名程度、留学生に限らず一般学生、外国につながる学生を含みます。

本学の留学生は、卒業後、ほぼ全員が、日本での就職を希望しており、大学生時代の地域社会での経験が将来非常に役立つと感じており、こういった留学生の存在を地域社会に認知していただきたいと考えています。また、留学生は、単なるお客さんではなく、日本で生きる市民として成長していくための糧になるような活動を続けていきたいと考えています。



4月海岸清掃



5月海岸清掃



11月海岸清掃



グローバルスタディ三重高校



グローバルスタディ郡山小学校



鈴鹿市との官学連携プロジェクト



国連 World Clean Up Day



ミャンマー地震チャリティイベント



匠の里・伊勢型紙フェスタ



こども食堂 (川遊び)



こども食堂 (もちつき)



JICA 研修生との交流

■活動内容と実績

毎週木曜日の昼休み 学生間の交流及び活動の計画 於：本学 E 棟 101 教室
2025 年 4 月 24 日 海岸清掃 於：鼓ヶ浦海岸
2025 年 5 月 14 日 官学連携プロジェクト 鈴鹿市公式 Instagram ミーティング 於：本学 E 棟 101 教室
2025 年 5 月 20 日 海岸清掃 於：鼓ヶ浦海岸
2025 年 6 月 28 日 ミャンマー地震チャリティイベント主催 於：本学第一会議室
2025 年 7 月 9 日 グローバルスタディ 於：三重高等学校
2025 年 9 月 28 日 国連 World Clean Up Day プロギングみえとの連携による市内清掃 於：鈴鹿大学周辺
2025 年 11 月 27 日 海岸清掃 於：鼓ヶ浦海岸
2025 年 10 月 18 日 鈴鹿こども食堂りんごの家 於：石水溪キャンプ場
2025 年 10 月 25 日 匠の里・伊勢型紙フェスタ 於：伊勢型紙協同組合関連施設
2025 年 10 月 28 日 JICA 研修生による ICC 訪問 於：本学 E 棟 101 教室
2025 年 12 月 5 日 グローバルスタディ 於：鈴鹿市立郡山小学校
2026 年 1 月 17 日 鈴鹿こども食堂りんごの家 於：子育て応援館
2026 年 2 月 26 日 高等教育コンソーシアムみえ主催「みえまちキャンパス in 鈴鹿高専」参加
2026 年 3 月 20 日 第 20 回 SYD ボランティア奨励賞受賞式「特別賞」受賞

■今後の計画

次年度は、これまでの活動に加えて、本学でのこども食堂の開催を予定しています。こども食堂ボランティアでお世話になっている NPO 法人 Shining 鈴鹿こども食堂「りんごの家」との連携により、2026 年度二回の開催を目指して、計画を進めています。また、これまで連携してきた、鈴鹿市社会福祉協議会、鈴鹿市、ウミガメネットワーク三重など各団体様との連携も続けていきたいです。

■担当

国際地域学部 富本真理子 m-tomimoto@suzuka.ac.jp
国際地域学部 佐藤瑠美 r-sato@suzuka.ac.jp
国際地域学部 菊森智絵 t-kikumori@suzuka.ac.jp

3. 地域連携

3-1 公開講座・授業公開

3-1-1 公開講座

■活動の目的と経緯

令和7年度は、受講者のニーズに幅広く応えるため、新たな講座を提案・実施しました。その中には、通常の講座に加えて、企業のサポートによる寄付講座（受講料を企業が負担）を加えました。11講座のうち8講座が開講成立（1講座5名以上で開講）、累計参加者は77名となり、一定の評価が得られました。次年度以降も、大学の持っている専門知識を広く地域・社会に発信し、大学の知の開放、社会貢献を目的として継続実施する予定です。

■活動内容と実績

- ・ 通年 広報活動の実施（鈴鹿市報・学校向けチラシ・公民館等へのチラシ配置・HP掲載 など）
- ・ 5～12月 令和7年度公開講座の実施

タイトル	内容	講師	日にち	時間	定員	最少人数	受講料	対象者
津城下のまちあるきツアー～キリシタン強圧の歴史をたどる～	カトリック津教会⇒お城西公園⇒正覚寺(赤門寺)⇒イセタニコレクション(カトリック津教会収蔵のキリシタン遺物の特別公開)説明付きで800mを、ゆったり約1.5時間かけて歩いてまいります。	富本 真理子 (大学院 国際学 研究科)	5/24 (土)	10:00～11:30	20名	5名	500円 (中学生以下無料)	一般
“アメリカファースト”の関税戦争に協力すべきか？	アメリカの関税政策をきっかけに、日本はどう動くべきでしょうか？「協力すれば得、でも裏切られたら損をする」——いま世界で起きている国どうしの駆け引きを、やさしく読み解きます。	伍翔 (国際地域学部)	6/14 (土)	10:00～11:30	教室満席まで	5名	500円	高校生以上
自分で決める力を育てよう！	日常生活で「どうしようかな？」と迷ったときに、自分で考えて納得のいく選択ができるようになるための意思決定スキルを楽しいレクリエーション活動を通じて学びます。	木村 美来 (こども教育学部)	8/2 (土)	10:30～12:00	教室満席まで	4名	500円	小・中学生 保護者 同行可
生成AIの利用と危険性	2022年11月に登場したChatGPTによって注目をあびた生成AIについて解説します。ChatGPTの登場以降、急速に発展した様々な分野で利用されるようになりました。この生成AIはどのようなことに利用できるのか、また注意点を危険性などについて学びます。	原 仁志 (国際地域学部)	9/13 (土)	10:00～11:30	30名	5名	500円	高校生以上
ヒトと昆虫の免疫 ヒトが体を守る仕組みを昆虫から学ぼう	昆虫は自然免疫を有しており、白血球が食作用などの免疫反応を起こすことで病原体等の異物から体を守っています。この仕組みは、ヒトと共通する部分が多く、昆虫を研究することで、ヒトの免疫の一端を理解できます。その一部を皆様にご紹介します。	奥村 雄輝 (こども教育学部)	9/20 (土)	10:30～12:30	24名程度	6名	500円	小学校 高学年以上
なぜ日本は外国人観光客に人気があるのか ～新しい観光を創るために～	2024年、史上最大の外国人観光客が日本を訪れました。なぜ日本は外国人観光客に人気があるのか、どうしたら外国人観光客を受け入れることができるのか学びます。	古川 彰洋 (国際地域学部)	10/26 (日)	10:30～12:00	教室満席まで	10名	500円	一般
A Tour of Internment Camp Sites in British Columbia, and Internment Haiku	This presentation will show introduce several of the locations of internment camps in British Columbia's interior. In addition, haiku that were written in some of the camps will be discussed.	アントニオ ジャン ビエール (国際地域学部)	11/22 (土)	13:00～14:30	15名	5名	500円	18 years or older, and with at least intermediate level English
生活の援助「睡眠」	子どもの成長に、なくてはならない「睡眠」。「睡眠サイクル」「ノンレム睡眠とレム睡眠」保育所等の施設における睡眠対応について」等から子どもの1日の生活リズムと睡眠をいっしょに考えていきましょう。	國京 恵子 (こども教育学部)	11/29 (土)	10:30～12:00	10名 (乳幼児の同伴可能)	5名	500円	乳児 (1歳未満児)の 保護者、妊婦
トーンチャイムでクリスマスの曲を演奏しましょう	トーンチャイムはやわらかく響く美しい音色をもっています。誰でも簡単に音を出せるトーンチャイムを使って、レクリエーションを行い、最後にクリスマスの曲を演奏します。大人の方もお子さんもみんな一緒に楽しい時間を過ごしましょう！	南谷 悠子 (こども教育学部)	12/20 (土)	10:30～12:00	20名程度	5名	500円	小学生から 大人 (低学年は 親子で)
【国家試験対策】								
管理栄養士国家試験 準備講座	10:00～11:00 基礎栄養学(担当:梅原) 11:00～12:00 応用栄養学(担当:梅原) 13:00～14:00 生化学(担当:木下) 14:00～15:00 練習問題(担当:福永)	短期大学部 食物栄養学 専攻教員	2026/ 2/15 (日)	10:00～15:00	教室満席まで	10名	2,000円 (1時間 500円 ×4時間)	栄養士免許 保持者
【(株)メディカルー光 寄付講座】								
脳の活性化を図る 「臨床美術」を体験してみませんか？	臨床美術(アートセラピー)は、対象物を「見る」だけでなく、手で触れたり、匂いを嗅いでみたり、味を味わったり、音を聴きながら手を動かすことで、全身の感覚を刺激していきます。「五感の刺激」と「リラックスできるコミュニケーション」によって、感性が開かれ、意欲的かつポジティブに、そして生きる力もわいてきます。脳が喜ぶ！心が笑う！臨床美術を体験してみましょう！	小柴 博正 (臨床美術士) (社会福祉法人 菊寿会 理事長) (元厚生労働大臣 秘書官)	10/4 (土)	10:00～11:30	20名	10名	無料	18歳以上なら だれでも(40歳 ～80歳の方) は認知症予防、 改善に効果的 と言われています

★実施講座の内容は別に巻末資料「●巻末資料・令和7年度公開講座一覧」にも記載してあります。

■今後の計画

次年度も今年度と同様にバラエティーに富んだ講座を提供する予定です。従来の広報活動が有効に機能するように講座対象者に対して積極的に呼びかけしていきます。

■担当

総務・財務課および COC（地域連携）センター soumu@suzuka.ac.jp

3-1-2 授業公開

■活動の目的と経緯

開かれた大学、地域に貢献できる大学を目指し、鈴鹿大学・鈴鹿大学短期大学部では、正規授業を地域の皆様に公開しています。聴講生として受講をしていただきます。地域住民の皆様が生涯学習の場としてご利用してくださっています。

■活動内容と実績

今年度は、後期に10科目の教養科目や各学部の専門科目と幅広い分野の科目が公開されました。公開された科目は下表の通りです。

	月	火	水	木	金
1限 9:00～ 10:30	・地域研究・東南アジア(竹野) ・地域産業論(金子)				・観光メディア論(渡辺)
2限 10:40～ 12:10	・中国の言語と文化Ⅱ(細井) ・人的資源管理論(金子)	・三重・鈴鹿学(冨本) ・経営戦略論(金子)			
3限 13:00～ 14:30	・心理学入門(齋藤)	・アジア国際関係史(細井)			
4限 14:40～ 16:10	・中国語Ⅱ(細井)				

■今後の計画

引き続き、地域住民の学びの場として、正規授業を公開していきます。2025年度も後期に授業公開する予定です。

■担当

COC（地域連携）センターおよび教務課 kyomu@suzuka.ac.jp

3-2 高等教育コンソーシアムみえ

■活動の目的と経緯

三重県内高等教育機関相互並びに県内高等教育機関と地域との連携を促進することにより、県内高等教育機関の教育、研究、地域貢献の各機能の向上を図り、人口減少の抑制及び地域の活性化を実現することを目的として発足しました。鈴鹿大学は、2016年3月の高等教育コンソーシアムみえ設立と同時に活動に参加しています。

■活動内容と実績

本事業には、以下のような活動があります。

1. 企画運営委員会：コンソーシアムの企画、運営、評価、広報など
2. FD/SD 部会：教育・職員の能力向上、専門人材の育成など
3. 地域貢献部会：地域貢献機能の充実、地域からの事業受託、学生の地域活動支援など
4. 教育連携部会：(1)三重創生ファンタジスタの養成、(2)単位互換協定に基づく授業科目の開放

本年度は、地域貢献部会の活動として、本学が部会長となり、地域貢献部会の年3回の定例会議の運営を行ってきました。また、毎年開催の「みえまちキャンパス(写真)」は、今年度鈴鹿工業高等専門学校で開催され、部会長が審査委員長を務めました。



ステージ発表①鈴鹿大学 ICC



ステージ発表②子どもボランティア部

■今後の計画

今後も県内の高等教育機関と連携を深め、協力しながら、本学の学生にとっても、メリットのある取組をいたします。県内への就職に有利な三重創生ファンタジスタの資格取得者が増えて、地域人材育成・地域貢献できる大学を目指してまいります。

■担当

総務・財務および COC (地域連携) センター soumu@suzuka.ac.jp



パネル発表 (鈴鹿大学 ICC)

3-3 鈴鹿市社会福祉協議会との防災関連事業

■活動の目的と経緯

令和6年8月8日に日向灘（宮崎の東南東30km付近）で発生した地震を受けて「南海トラフ地震臨時情報（巨大地震注意）」が発出されるなど、大規模災害がいつ発生してもおかしくない状況にあります。鈴鹿市内で大規模災害が発生した際には、迅速かつ効率的に被災者に対する支援活動が提供できるように、体制を整えておく必要があります。本学は、社会福祉法人鈴鹿市社会福祉協議会と連携協定を締結して、災害ボランティア受付のサテライト拠点に位置付けられています。

■活動内容と実績

本年度も連携協定に基づき、令和8年1月24日（土）午前、社会福祉法人鈴鹿市社会福祉協議会が主催する鈴鹿市災害ボランティアセンター設置・運営訓練に教職員7名が参加しました。鈴鹿医療科学大学白子キャンパスでサテライト本部の運営とボランティア訓練の実践に携わりました。



■今後の計画

本学は大規模災害時のサテライト拠点であり、有事の際に駆けつけていただくボランティアの方への的確な指示を出すことが第一義です。それには、100名に満たない教職員に当事者意識を徹底することが重要です。令和8年度も引き続き防災関連の取り組みに関与してまいります。

■担当

総務・財務課およびCOC（地域連携）センター soumu@suzuka.ac.jp

3-4 あそび広場「すずちゃん」

■活動の目的

あそび広場すずちゃんは、地域の親子が集い、子どもが楽しく遊んだり、保護者と子が交流したりする機会を提供します。また、子ども同士、保護者同士が自然に交流できる環境を作り、子どもの健やかな育ちを支えます。保護者のニーズに応じ、子育て等に関する情報の提供や相談を通して、保護者が安心して子育てができる環境を整えてきました。学生は実践活動を展開し、保育の実践力を高める場となっています。

■活動内容と実績 (2025 年度)

開催期間：毎週水曜日 10 時～11 時 30 分

開催場所：鈴鹿大学 I 棟プレイルーム

開催回数：通常の広場 4 回、リトミック 4 回（リトミックは外部講師）



2025 あそび広場すずちゃん 参加人数				
		学生	親	子ども
1 (7/9)	親子リトミック	2	11	11
2 (7/23)	学生企画+大学教員ミニ講座	5	10	10
3 (7/30)	親子リトミック	5	9	9
4 (10/8)	親子リトミック	2	6	6
5 (10/29)	学生企画	15	8	9
6 (11/19)	学生企画+大学教員ミニ講座	7	7	8
7 (11/26)	親子リトミック	5	1	2
8 (12/17)	学生企画	8	10	11

令和7（2025）年度は、学生のべ 49 名、子ども 66 名、保護者 62 名の参加がありました。本活動は学生の実践的な学びの場、教員の研究・教育の場、大学の地域貢献活動、保護者とこどもの安心の場・楽しい場となっています。教育・保育実習では学ぶことのできない保護者支援の学びが期待でき、実習に先立って保育指導の学びも得ることができる機会となりました。指導計画案に基づいた保育の充実を図り、振り返りのミーティングをもって成果、課題を語り合い、模擬保育を実践することで、学生に十分な学びの場を提供することができました。

■今後の計画

安全な環境構成に努めながら広場を開催し、広場をより多くの人に利用してもらえるよう広報いたします。多くの参加者を募り、地域の子育て支援へ貢献するとともに、学生の学びの成果を高めていきたいと思っております。

■担当

こども教育学部 市川理恵子 r-ichikawa@suzuka.ac.jp
こども教育学部 國京恵子 k-kunikyo@suzuka.ac.jp
こども教育学部 南谷悠子 y-nanya@suzuka.ac.jp

3-5 すずか市民アカデミー「まなベル」

■活動の目的と経緯

「すずか市民アカデミー『まなベル』」は、鈴鹿市と連携し、鈴鹿市民の「さらに詳しく知りたい」という専門的分野への学習ニーズに応えるとともに、学びの楽しさを実感し、生涯学習をさらに深めていくことを目的としています。

「まなベル」は、鈴鹿市から業務委託という形式で鈴鹿市内の4高等教育機関が行っている事業です。各教育機関を会場として、それぞれの特徴を生かした専門性のある教育内容を分かりやすく楽しい講座として提供しています。

■活動内容と実績

- ・2025年9月20日（土）13:30～15:00（会場：B棟101）



講座：移民史から学ぶアメリカ スイス移民が築いた町ウィスコンシン州 New Glarus

ねらい：アメリカ合衆国は、移民の国と言われ、多様な移民の流入により発展してきました。地域ごとに人種・民族構成も異なり、今なお特定の民族集団による伝統文化や慣習が色濃く残り受け継がれている場所も存在します。スイス移民の歴史をとおして、アメリカの多様性と移民史の一端を理解することを目指します。

講師：国際地域学部 准教授 杉浦恵美子
参加人数：12名

- ・2025年9月25日（木）10:30～12:00（会場：B棟101）



講座：子どもの食について考えよう

ねらい：子どもの食に係る発達を踏まえ、その子に合った食事の支援が必要であることがわかる。

講師：短期大学部 教授 乾 陽子
参加人数：9名

■今後の計画

引続き鈴鹿市の要望（テーマ）及び鈴鹿市民の学びのニーズを応えた講座を提供していきます。また、本学の特徴を生かした専門的でありながら、それでいてわかりやすい生涯学習講座を目指していきます。

■担当

総務・財務課およびCOC（地域連携）センター soumu@suzuka.ac.jp

3-6 みえアカデミックセミナー

■活動の目的と経緯

三重県内にある全ての高等教育機関が有する高度な学びと県民の方々をつなぐことを目的とした公開講座セミナーです。各高等教育機関の特色を生かしたバラエティ豊かなセミナーであり、新しい学びの発見につながるとともに、地元の各高等教育機関の特色や地域への取り組みなどを知ってもらうことができるよい機会となっています。

■活動内容と実績

- ・2025年8月26日（火）13：30～15：00（会場：三重県文化会館レセプションルーム）

講 座：保育における5領域をもとに「音楽」の可能性を考える

講 師：こども教育学部 助教 大久保 友加里



■今後の計画

引き続き、県民の学びのニーズに応えた講座を提供していきます。また、本学の特徴を生かした専門的でありながら、それでいてわかりやすい講座を目指していきます。

■担当

総務・財務課およびCOC（地域連携）センター soumu@suzuka.ac.jp

3-7 四日市市ステップアップ講座「イスラームと女性の人権のお話 - マレーシアの女性たち」

■活動の目的と経緯

2026年1月20日、四日市市人権センター様の後援で四日市市総合会館にて、竹野助教がイスラームと女性の人権に関する講演を開催しました。参加者数はズームでの参加も含めて約20名となり、盛況のうちに終了いたしました。本講演は、四日市市民にマレーシアにおける女性ムスリムに対する理解（エチケットや宗教実践など）を深めていただく場になりました。



■活動内容と実績

本講演では、竹野助教がマレーシアにおける女性ムスリムの人権擁護運動についての説明を行いました。その後、参加していただいた市民の皆様との質疑応答という流れになりました。講演後、参加者からは「女性ムスリムの課題を知ることができた」、「女性ムスリムがすすんでスカーフを巻くという説明はその通りだと思った」などのコメントをもらうことができました。本講演が四日市市民のイスラーム理解と多文化共生を考えるための第一歩になったと思います。

■今後の計画

今後は本学を外国人共生の増進のための拠点とすべく、外国移民のテーマとする市民参加型の研究会の設立にむけて努力していきたいと考えております。

■担当

国際地域学部 竹野富之 y-takeno@suzuka.ac.jp

3-8 鳥羽市市民図書館における多文化共生ポスターの作成

■活動の目的と経緯

2025年度の課題解決学習（竹野担当）では、地域貢献と多文化共生の一環として鳥羽市国際交流協会の多文化共生展示のポスターの制作に取り組みました。

■活動内容と実績

本プロジェクトは、鳥羽市国際交流協会の要請を受け、同協会が主催する多文化共生月間中（2026年1月）に展示するポスター制作を目的とするものです。制作に関わったのは課題解決型学習（竹野担当）の学生17名（ネパール出身留学生14名、中国出身留学生1名、日本人学生2名）です。本ポスター制作は、学生らに出身国や日本での生活についての写真とコメントの提出を求め、それらのデータをパワーポイントにまとめる形で進めました。

参加学生からは「出身国のことを日本人によく知ってもらいたい機会である」、「鈴鹿大学での学生生活を知ってほしい」との意見がみられました。また、協会の担当者の方によると、展示会参加者から「ネパールの文化の事を知れてよかった」といった好意的な感想が寄せられたそうです。本プロジェクトを通じて、鈴鹿大学と鳥羽市市民との地域連携が一段と進んだと思います。

■今後の計画

次年度も多文化共生月間でポスター展示を実施するそうなので課題解決型学習（竹野担当）の課題として取り上げ、よりよい展示発表ができるよう学生を指導していく予定です。また、鳥羽市では外国人防災リーダーの育成にも力を入れていることから、本学でも留学生の防災意識を高めるうえでも連携していきたいと考えております。

■担当

国際地域学部 竹野富之 y-takeno@suzuka.ac.jp



4. 国際交流

4-1 海外留学支援プログラム

■活動の目的と経緯

本学の目標のひとつに「国際社会で活躍できる人材の育成」が掲げられ、開学以来、学生が海外生活を送り、異文化を体験できるような支援を行っています。現在は、必要条件を満たす学生が支援金を申請できる「海外留学支援プログラム Study Overseas Program」が設置されており、学生の主体的な学びを経済・教育の両面からサポートしています。

■活動内容と実績

2025 年度は、韓国・仁川大学校への学生派遣を実施しました。本プログラムを利用し、人文学部日語日文科へ中期プログラムとして 1 名の学生を派遣しました。

- 派遣期間：2025 年 9 月から 12 月（中期プログラム）
- 派遣先：韓国・仁川大学校 人文学部日語日文科
- 活動概要：派遣学生は仁川大学校において、現地の学生と共に専門科目の講義を履修したほか、異文化交流プログラム等を通じて現地の文化や社会への理解を深めました。
- 学びの成果：留学終了後には報告会を開催し、現地での学習成果や生活体験について発表を行いました。仁川大学校から送られた成績評価に基づき、本学の「海外研修」として単位認定（8 単位）を行う予定です。

■今後の計画

引き続き、海外協定校への留学支援を継続します。韓国・仁川大学校、との交流を軸に、派遣希望学生への事前指導の充実や支援金制度の周知を図り、より多くの学生が異文化体験を通じて成長できる機会を提供していきます。

■担当

学生・キャリア支援課および国際交流センター gakusei@suzuka.ac.jp

4-2 国際交流

■活動の目的と経緯

本学の学生が多様な人々とともに目標に向かって協力する力を身につけるために、授業内外で海外の学生との交流・協働を行っています。

■活動内容と実績

①2025 観光プロジェクト タイのプーケット・ラチャパット大学の SDGs 海外研修に参加

令和7年8月25日(月)～8月28日(木) タイのプーケット・ラチャパット大学(以下、PKRU)のSDGsキャンプ研修に参加しました。PKRUは観光産業が主産業のプーケットで、地元の文化・歴史を重視したコミュニティベースのツーリズム等の地域連携を重視しています。

Prasarnkarn 学長、Prathomson 学部長から歓迎を受けた後、マレーシア、中国の提携大学の学生及び PKRU の学生と一緒に学びました。

寂れた漁村を復活させた小さな漁村の地元食材を活かした取組、一番有名なアイスクリーム店での細かいごみ処理、プーケット人の歴史と文化を維持するプーケット博物館の取組、四半世紀前の津波被害から学んだ観光客の安全安心のリスクマネジメントシステム等、学びました。



②スリランカからクマーラ先生が来学

令和7年12月8日(月)、本学の元学長補佐であり、スリランカの大学「ランカ・ニッポン・ビズテック・インスティテュート(LNBTI)」のアーナンダ・クマーラ学長が本学を訪れ、大学・短期大学部水谷学長、田中副学長と懇談を行いました。

その後、本学のスリランカ留学生とも合流し、なごやかに話しされました。

※LNBTI・・・スリランカ人学生がIT技術を学び、日本で働くことを目的とする大学。

近い将来、LNBTIと本学との連携を進めていきます。



■今後の計画

多文化共生をより発展させるために学生のみならず教職員間における学術交流についても視野に入れます。

■担当

総務・財務課および国際交流センター soumu@suzuka.ac.jp

●巻末資料

・令和7年度公開講座一覧

	講座名	講師	開催日	内容	受講者数
1	津城下のまちあるきツアー～キリシタン弾圧の歴史をたどる～	富本真理子	5月24日 (土)	カトリック津教会⇒お城西公園⇒正覚寺（赤門寺）⇒イセタニコレクション（カトリック津教会収蔵のキリシタン遺物の特別公開）説明付きで800mを、ゆったり約1.5時間かけて歩いてまわる。	12名
2	自分で決める力を育てよう！	木村美来	8月2日 (土)	日常生活で「どうしようかな？」と迷ったときに、自分で考えて納得のいく選択ができるようになるための意思決定スキルを、楽しいレクリエーション活動を通じて学ぶ。	5名
3	生成AIの利用と危険性	原仁志	9月13日 (土)	2022年11月に登場したChatGPTによって注目をあびた生成AIについて解説する。ChatGPTの登場以降、急速に発展し様々な分野で利用されるようになった。この生成AIはどのようなことに利用できるのか、また注意点や危険性などについて学ぶ。	10名
4	ヒトと昆虫の免疫 ヒトが体を守る仕組みを昆虫から学ぼう	奥村雄暉	9月20日 (土)	昆虫は自然免疫を有しており、白血球が食作用などの免疫反応を起こすことで病原体等の異物から体を守っている。この仕組みは、ヒトと共通する部分が多く、昆虫を研究することで、ヒトの免疫の一端を理解できる。その一部を皆様に紹介する。	5名
5	脳の活性化を図る「臨床美術」を体験してみませんか？	小柴博正	10月4日 (土)	臨床美術（アートセラピー）は、対象物を「見る」だけではなく、手で触れたり、匂いを嗅いでみたり、味わったり、音を聴きながら手を動かすことで、全身の感覚を刺激していく。「五感の刺激」と「リラックスできるコミュニケーション」によって、感性が開かれ、意欲的かつポジティブに、そして生きる力もわいてくる。脳が喜ぶ！心が笑う！臨床美術を体験してみよう！	15名
6	なぜ日本は外国人観光客に人気があるのか～新しい観光を創るために～	古川彰洋	10月26日 (日)	2024年、史上最大の外国人観光客が日本を訪れた。なぜ日本は外国人観光客に人気があるのか。どうしたら外国人観光客を受け入れることができるのか学ぶ。	13名

7	A Tour of Internment Camp Sites in British Columbia, and Internment Haiku	アントニオ ジャン ピエール	11月22日 (土)	This presentation will show introduce several of the locations of internment camps in British Columbia's interior. In addition, haiku that were written in some of the camps will be discussed.	9名
8	トーンチャイムでクリスマスの曲を演奏しましょう	南谷 悠子	12月20日 (土)	トーンチャイムはやわらかく響く美しい音色をもっている。誰でも簡単に音を出せるトーンチャイムを使って、レクリエーションを行い、最後にクリスマスの曲を演奏する。大人の方もお子さんもみんなで一緒に楽しい時間を過ごそう♪	8名
受講者合計					77名

●学外委員会での活動(委員会名・役職名のリスト)

この資料は鈴鹿大学・鈴鹿大学短期大学部に委嘱届の提出されたもののみを示します。この他に教員が個人的に学外組織の委員を務めている場合もあります。

教員

氏名	派遣先	内容
水谷 明弘	三重県	みえメディカルバレー推進代表者会議／委員 みえライフィノベーション総合特区地域協議会／委員
	鈴鹿市スポーツ協会	評議員
	SUZUKA 産学官交流会	顧問
	鈴鹿工業クラブ	会員
	ケーブルネット鈴鹿放送 番組審議会	委員
	鈴鹿メディアパーク番組 審議委員会	委員
今光 俊介	鈴鹿医療科学大学	臨床研究倫理審査委員会／外部委員 ヒトゲノム研究倫理審査委員会／外部委員
	鈴鹿市	鈴鹿市モノづくり元気企業支援事業検討会議／構成員
田中 利佳	三重県議会	三重県選挙管理委員会／委員
	鈴鹿市	鈴鹿市特別職報酬等審議会／委員
舟橋 宏代	ダイシン物流株式会社	日本語教室講師アドバイザー
松下 奈美子	三重労働局	第 54 期三重地方最低賃金審議会
	東京財団	上席フェロー
冨本 真理子	三重県	第 25 回三重県文化賞選考委員会
	伊勢市	伊勢市都市計画審議会／委員
	鈴鹿市	鈴鹿市人権擁護に関する審議会／委員
		鈴鹿市景観審議会／委員
棧敷 まゆみ	三重県	三重県多文化共生推進会議／委員
竹田 昌平	三重県生涯スポーツ協会	理事長
上田 ゆかり	三重県	みえ家庭教育応援推進会議／委員
	鈴鹿市	鈴鹿市子ども・子育て会議／委員
		鈴鹿市放課後児童クラブ等における虐待防止部会委員会／委員
亀山市	亀山市子ども・子育て会議／委員	
川又 俊則	桑名市	桑名市男女共同参画審議会／委員
	鈴鹿享栄学園	評議員
石川 拓次	鈴鹿市	鈴鹿市特定教育・保育施設等重大事故検証委員会／委員

木村 美来	鈴鹿市	鈴鹿市国民保護協議会／委員 鈴鹿市防災会議／委員
井上 明美	長浜市教育委員会	就学前特別支援巡回相談／相談員
	東近江市	東近江市被害者支援／相談員
梅原 頼子	三重県	公衆衛生審議会歯科保健部会／委員
	三重県栄養士会	監事
木下 麻衣	三重県栄養士会	理事 生涯教育／委員

その他

竹田 昌平	株式会社タケダ	代表取締役
	株式会社プロット	取締役

●協定先一覧

2026年3月31日現在

協定先	内容
鈴鹿市	鈴鹿国際大学と鈴鹿市との学官連携に関する協定書
鈴鹿市	大規模災害時における避難場所としての使用に関する協定書
社会福祉法人鈴鹿市社会福祉協議会	社会福祉法人鈴鹿市社会福祉協議会と学校法人享栄学園鈴鹿大学・鈴鹿大学短期大学部との災害発生時における相互協力に関する協定書
全国「道の駅」連絡会	「道の駅」就労体験型実習の実施に関する基本協定
有限会社ホテル・ニューいろは	彩花亭の経営コンサルティング実践に関する産学連携基本協定書
株式会社ワンピース	株式会社ワンピースと鈴鹿大学短期大学部との産学連携基本協定書
亀山市教育委員会	亀山教育委員会と鈴鹿大学との連携に関する協定書
亀山市教育委員会	亀山教育委員会と鈴鹿大学短期大学部との連携に関する協定書
尾鷲市	尾鷲市インターンシップの取扱いに関する協定書
SUZUKA 産学官交流会	ランニングバイクプロジェクトに関する基本協定書
株式会社日本政策金融公庫津支店、株式会社日本政策金融公庫四日市支店	起業家教育及び産学連携の協力推進に関する協定書
株式会社タスカル	株式会社タスカルと学校法人享栄学園との産学連携基本協定書
三重県	鈴鹿大学及び鈴鹿大学短期大学部への三重県営住宅の提供に関する協定書
NPO 法人三重県生涯スポーツ協会	インターンシップに関する協定書
NPO 法人三重県生涯スポーツ協会	NPO 法人三重県生涯スポーツ協会とのデータサイエンス教育に関する協定書
株式会社三重スポーツコミュニケーションズ	株式会社三重スポーツコミュニケーションズとのデータサイエンス教育に関する協定書
陸上自衛隊航空学校	鈴鹿大学短期大学部校外実習生受け入れ協力に関する協定書
一般社団法人鈴鹿市観光協会	一般社団法人鈴鹿市観光協会と学校法人享栄学園の相互連携に関する協定書
太門通商株式会社	太門通商株式会社と鈴鹿大学・鈴鹿大学短期大学部との産学連携基本協定書
日清医療食品株式会社	日清医療食品株式会社と鈴鹿大学・鈴鹿大学短期大学部との産学連携基本協定書
公益財団法人日本スポーツ施設協会	公認スポーツ施設管理士養成講座開講及び資格認定試験の実施に関する協定書
特定非営利活動法人三重県生涯スポーツ協会、三幸株式会社	スポーツビジネス人材の育成に関する産学連携基本協定書
NPO 法人三重花菖蒲スポーツクラブ	スポーツ経営人材の育成に関する産学連携基本協定書
株式会社スズカ未来	株式会社スズカ未来と学校法人享栄学園との産学連携基本協定書
陸上自衛隊久居駐屯地	校外実習生受け入れ協力に関する協定書
陸上自衛隊航空学校明野駐屯地	校外実習生受け入れ協力に関する協定書
一般財団法人答志島スポーツ・文化クラブ	スポーツ経営人材の育成に関する産学連携協定書
一般財団法人 UAV&INC 協会	一般財団法人 UAV&INC 協会との連携に関する協定書
鈴鹿市選挙管理委員会	選挙啓発の連携協力に関する協定書

● 高大連携関係

鈴鹿高等学校	高大連携に関する協定書
三重県立久居高等学校	三重県立久居高等学校と学校法人鈴鹿短期大学との高大連携に関する協定書
鈴鹿高等学校、鈴鹿中学校	鈴鹿中学校・鈴鹿高等学校と鈴鹿大学・鈴鹿大学短期大学部との高大連携に関する協定書
三重県高等学校商業校長会	三重県商業学校商業校長会と鈴鹿大学・鈴鹿大学短期大学部との商業教育連携・推進に係る協定書
三重県立四日市工業高等学校	三重県立四日市工業高等学校と学校法人享栄学園鈴鹿大学との高大連携に関する協定書
三重県立白子高等学校	三重県立白子高校 高大連携に関する協定書
三重県立石薬師高等学校	三重県立石薬師高等学校 高大連携に関する協定書
三重県立白山高等学校	三重県立白山高等学校と鈴鹿大学・鈴鹿大学短期大学部との高大連携に関する協定書
三重県立飯南高等学校	三重県立飯南高等学校と鈴鹿大学との高大連携に関する協定書
三重県立稲生高等学校	三重県立稲生高等学校との高大連携に関する協定書
三重県立四郷高等学校	三重県立四日市四郷高等学校との高大連携に関する協定書

● 国際交流関係

昌信専門大学	日本国鈴鹿大学と大韓民国昌信専門大学の姉妹関係締結に関する協定
東方工商専科学校	学術交流に関する協定
育達商業技術学院	日本国鈴鹿国際大学と中華民国育達商業技術学院の学術交流に関する協定
観光大学	日本国鈴鹿大学と大韓民国韓国観光大学の学術交流に関する協定
西安外国語大学	鈴鹿大学と西安外国語大学の相互協力と交流に関する協定書
仁川大学	日本国鈴鹿大学と大韓民国仁川大学校との学術交流に関する協定
順天第一大学校	日本国鈴鹿大学と大韓民国順天第一大学校の学術交流に関する協定
NAJC	鈴鹿大学と NAJC の教育パートナーシップに関する協定
台湾首府大学	鈴鹿大学と台湾首府大学との学生交流及び進学支援に関する協議書
蘇州人旺資源服務有限公司	中国人留学生の就職支援に関する協定書
中国文化大学社会科学学院	鈴鹿大学と中国文化大学の学術交流に関する協定書
長榮大学	鈴鹿大学と長榮大学との学術交流に関する協議書
啟英高等学校	鈴鹿大学と啟英高等学校との学生交流及び進学支援に関する協議書
湖南女子学院	日本鈴鹿大学と湖南女子学院短期留学プロジェクト協定書
西安交通大学城市学院	西安交通大学城市学院との学術交流に関する協定
西安厚智教育諮詢有限公司	西安厚智教育諮詢有限公司との契約書
煙台城市科技職業学院	煙台城市科技職業学院との学術交流に関する協定
三岐大学科技学院	三岐大学科技学院との学術交流に関する協定
シェリダ工科・高等教育大学	基本合意書

●その他

放送大学	鈴鹿国際大学と放送大学との間における単位互換に関する協定書
四日市大学 他 5 高等教育機関	三重県私立高等教育機関の包括的連携に関する協定書
三重大学 他 12 高等教育機関	高等教育コンソーシアムみえ単位互換に関する協定書
岐阜経済大学	大学間連携推進事業の実施に関する協定書
愛知教育大学	愛知教育大学と鈴鹿大学との教員養成の高度化に関する連携協定書
INC 国際教育振興協会	株式会社 INC 国際教育振興協会と学校法人享栄学園鈴鹿大学との連携に関する協定書
学校法人メイ・ウシヤマ学園	学校法人メイ・ウシヤマ学園と包括連携協定書
一般社団法人 DPCA	一般社団法人 DPCA との連携に関する協定書